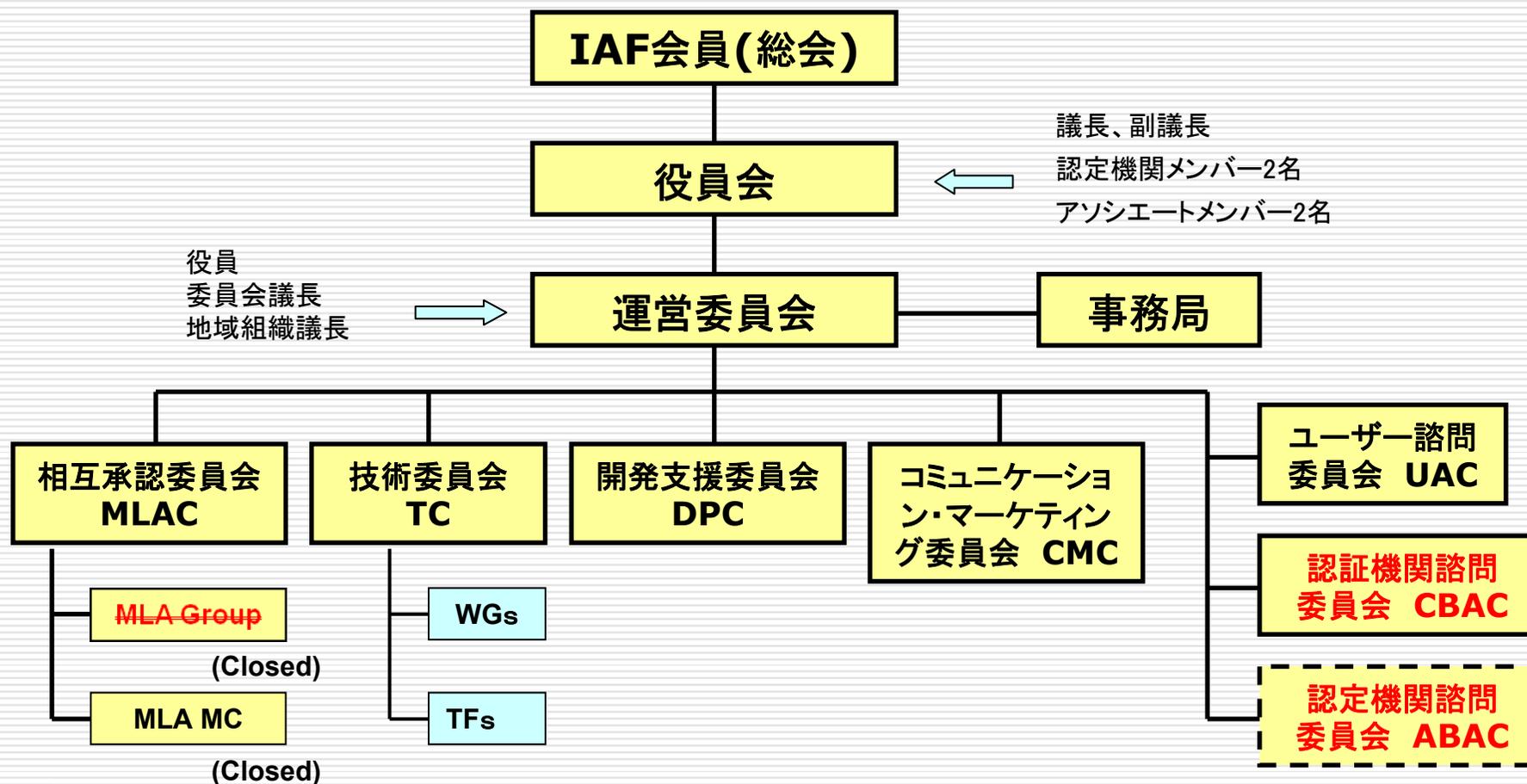


IAF総会、IAF/ILAC合同総会 及び相互承認関連報告

2012年12月10日

公益財団法人 日本適合性認定協会
専務理事・事務局長
久保 真

IAFの組織構造



IAF総会報告

- IAF会員数:87 オブザーバ:4
 認定機関66、準会員17、地域会員 4、
- 新規認定機関メンバー：（2011年～2012年）
 - Organization of Ecuadorian Accreditation (OAE、エクアドル)
 - Uruguayan Accreditation Organization (OUA、ウルグアイ)
 - International Accreditation Japan (IA-Japan、日本)
 - Accreditation Body of Serbia (ATS、セルビア)
- 新規オブザーバ組織：
 - International Council of Management Consulting Institutes (ICMCI)
 - Libyan Centre for Standardization and Metrology (NLCSM、リビア)

IAF総会報告

技術委員会(TC)関連

□ WG活動:

- 17024、PEFC、ISMS、ITSMS、製品、医療機器、FSMS、温暖化ガス、MS信頼性の9つのWG、8つのタスクフォース(TF)が活動中。
- MS信頼性WGは、ISO 9001 Advisory Groupを吸収統合し、MS認証WGに名称変更

□ TC関連主な総会決議事項

- ISO/IEC 27006:2011への認定の移行は、規格発行より**18ヶ月**とする。
- ISO/IEC 17065:2012への認定の移行は、規格発行より**3年**とする。
- ISO/IEC 17024:2012への認定の移行は、規格発行より**3年**とする。
- ISO/CASCOの適合性評価関係の規格の移行は、特定のIAF適用文書作成の必要性等から特別に定めない限り**2年**とする。
- ISO/IEC TS 17021-2 をIAFの基準文書として承認し、その認定の移行は規格発行より**2年**とする。

IAF総会報告

相互承認(MLA)委員会関連

□ MLAメンバー

MS: 50機関(QMS 50、EMS 44)、3地域(QMS 3、EMS 2)

製品: 45機関、2地域

□ 新規MLA承認メンバー:

- ECA (Costa Rica) - QMS、製品
- A2LA (USA) - 製品
- IAS (USA) - 製品
- HKAS (Hong Kong, China) - EMS、製品
- OLAS (Luxembourg) - QMS、EMS、製品
- OUA (Uruguay) - QMS、EMS
- OAE (Ecuador) - QMS、製品
- ATS (Serbia) - 製品

□ その他

- MLA Group廃止し、よりオープンなMLAC新体制での運営を開始
- Global-GAPから新たなMLAとして承認を求める申請があり、肯定的に承認プロセスが進められている
- FCLデータベースの開発が来年春に完成の予定
- GD3(クロスフロンティア認定ガイダンス)改定したIAF文書案作成完了

IAF総会報告

その他決議事項

□ 役員選出

- 議長: Randy Dougherty (ANAB、米国)
- 副議長: Xiao Jianhua (CNAS、中国)
- 理事:
 - ◇ Low & Middle Income Economies: Ekanit Romyanon (NSC、タイ)
 - ◆ High Income Economies: Thomas Facklam (DAkkS、独)
 - ◆ Industry & User Association Members: Martin Stadler (BDI、独)
 - ◇ CAB Members: Roger Bennett (IIOC)

注;◇は今回非改選

□ 会計報告及び予算の承認

- 2011年実績: 収入USD315K、支出USD345Kで、USD30Kの赤字
- 2012年予想: 収入USD373K、支出USD450Kで、USD77Kの赤字見通し
- 2013予算: 収入USD518K、支出USD565Kで、USD48K赤字の予算を承認

IAF・ILAC合同総会

- IEC、ISO、WTO等関連団体からの報告
 - IEC/IAF/ILAC合同で、IECが特定の専門家を認定機関に派遣する統一認定審査のガイドラインを作成
 - ISOから、発行された規格が顧客ニーズに的確に対応することをキーワードに、「水」「バイオ」「持続性」「エネルギー」「災害」「食品」を主領域に活動しているとの報告
- MoU等署名
 - IAF・ILAC・ISO三者間MoU(更新)の署名
 - IAF・ILAC協力協定(更新)の署名
- 「国際認定推進の日 (World Accreditation Day:6月9日)」
 - 2013年テーマ: “Accreditation: Facilitating World Trade”
- 次回以降の総会開催予定
 - ソウル(韓国) 2013年10月16-28日
 - バンコク(タイ) 2014年 日程未定

相互承認(MLA)関連報告

- EA(ヨーロッパ)及びSANAS(南アフリカ)の相互評価の結果、更新を承認した。
- 新MLAスコープ開発に向け、要員、FSMS、ISMS、MD-QMSのWGが活動中。要員については、ISO/IEC 17024ベースのフレームワークMLAとして、2013年末までに各地域でMLA拡大が完了の予定。
- Discussion Paperの検討
 - 認定審査のばらつき
 - IIOCより国外認定における審査で、認定機関毎に認定基準の適用が異なるので、必要なIAF文書作成の検討を進めてはとの提案があった。
 - 具体的な事例が明示されなかったため、次回に議論することになった。
 - MLAスコープ拡大
 - 前回フランクフルト会議で討議未了となったCGCRE(ブラジル)提起のDiscussion PaperについてTF検討結果を踏まえての議論。
 - 新規MLAの申請条件として地域及びIAFとも3認定機関が必要かとの疑問に対し、地域内MLAの場合は地域のルールによること、IAFのMLAに地域が申請する場合、1認定機関でもよいとの結論になった。

JABの国際活動の考え方

基本方針

JABのブランド力を強化/国際的プレゼンスの強化・拡大

- IAF、PAC等の活動に積極的に参加、貢献することで、JABの認知と人的繋がりの強化を図る。
- 日本は認定・認証制度の先進国であり、問題・課題も先に経験する。これらの対応策を国内で具体化して世界に発信する。
- 日本提案を賛同する国の輪を、韓国・中国など近隣国、PACさらにはIAF加盟各国に広げる
- MCAA、JAB-UKAS-RvA間MoUに基づく協力体制を強化する。

MCAA: Multilateral Cooperative Accreditation Arrangement (JAB, ANAB, JAS-ANZ, SCCなど)

JABの国際活動の考え方

中期戦略

1. 経産省ガイドラインにある国内の認証制度の課題とその対応策について、国際整合を図るべく必要な文書を提案する。
 - ・情報公開(相互承認評価、認定審査、認証審査など)
 - ・**NS511-2010、NS512-2010**
2. クロスフロンティア方針を強化し、海外ABのみから認定を受けた認証機関への対応として、次の方針をIAF内に実現することを目指す。

「同一エコノミー内では、ローカルの認定機関の認定を優先することが望ましいこと、および、その中で活動する認証機関の審査は、認定機関の如何に関わらずローカルの認定機関が、海外認定機関の審査代行も含めて実施する。」
3. 規格作成に関わる日本代表エキスパートを輩出できるように人材を育成する。
4. 日本が主導すべき新規MLAプログラムを提案し、実現させる。
 - ・当面、**ISMS、FSMS、GHG**を対象とする。中でもGHGを最重点とする。